

「たばこ火災被害の低減対策に関する協議会」(消防庁)

消防庁では、たばこ火災被害（平成22年で全体の約10%「右グラフ」）の低減に向けた取組みの強化のため、平成22年12月、消防機関及びたばこ関係者等とともに「たばこ火災被害の低減対策に関する協議会」を設立し、今後の火災被害軽減のあり方について協議をされています。たばこ火災被害の低減を目指し諸外国の事例を参考にしつつ、たばこに係る出火原因の各要素（発火源、経過、着火物）に着目し、対策を総合的に進める観点から議論されています。このたび、中間報告が取りまとめられました。

◆ 現状

1 「発火源」としてのたばこの安全対策の現状

- 米国・カナダ・フィンランド・オーストラリア等では**低延焼性たばこの義務化**が急速に進捗
- EUでは早ければ本年11月に規制が施行予定
- 低延焼性たばこの導入による火災抑制効果については様々な議論

2 たばこ火災に至る「経過」に着目した注意喚起活動等の現状

- 消防機関では、住民に対する注意喚起を継続的に実施
- たばこ関係者では、主として喫煙者に対するマナー等の啓発活動を実施

3 たばこの「着火物」となりうる寝具類・衣類等に係る防炎対策の現状

- 米国や英国等では、寝具類や衣類など規制による対策の義務化
- 日本では、住宅における防炎品の使用促進に係る取組みを実施（規制の対象外）

◆ 協議結果

1 「発火源」に着目した対策の導入

- 低延焼性たばこの導入の要否に係る具体的な議論に向け、低延焼性たばこの火災抑制効果の検証を実施

2 「経過」に着目した対策の強化

- 関係者各自の取組みの継続に加え、新たに相互の連携を図りつつ、たばこ火災に関する注意喚起広報を強化

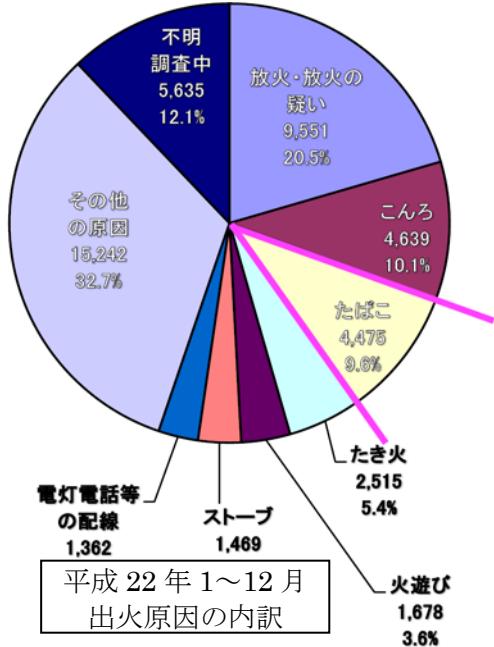
3 「着火物」に着目した対策の強化

- 消防庁で、今後の住宅防火基本方針を検討する場等を活用して、防炎品のさらなる使用促進に向けた方策について、防炎規制のあり方を含め議論

◆ まとめ

平成23年度も本協議会のもと、さらに必要な検証・検討等を行い、年内に最終的な結論を得ることを確認

『低延焼性たばこ』=火をつけたまま放置しても酸素の供給を抑制し、燃える速度を抑える帶を巻紙の数か所に組み込んでいるので、火がついたまま放置しても酸素が巻紙の部分から入ってこず、自然に火が消えるたばこ。



消火体験装置『Kesuzo』ご案内

リアルな消火シミュレーション

水中バーナー方式により、本物の火を作り出します。本物の「火」を使うため、近づけば熱さを感じ、風により炎があおられる本物の「火」の恐ろしさをリアルに体験できます。「火」と書かれたプレートやパイロンを使った従来の消火訓練では、本当の火の怖さが伝わらず、消火器の放射のタイミングや火との距離感を体で覚えることができません。

簡単操作・安心安全設計

操作パネルの点火スイッチとガス開閉バルブで簡単に操作ができます。

水とガスを使用する装置ですので、準備や片付けに手間がかかりません。

環境への配慮

市販プロパンガスと水消火器だけを使用します。粉末消火器、オイルパン（灯油等）を使わないので、準備や後片付けが簡単で環境に優しく、近隣住民へ配慮した消火訓練を行うことができます。



点 火

消 火



この商品の詳細については、
弊社担当者までお問い合わせください



「国境の河」